

白谷雲水峡

白谷雲水峡は屋久島で最もよく知られ、最も頻繁に人が訪れる場所である。鬱蒼とした森林地帯と落差のある滝からなるこの溪谷の面積は 424 ヘクタール、標高は 600～1,050 メートルである。

長さの異なる 3 つのトレイルを進んでいくと、清流を越え、針葉樹や広葉樹の原生林を抜け、樹齢千年の屋久杉を過ぎ、苔に覆われた別世界の風景へと至る。

辻峠から繋がる登山道は、荒川トレイル、大株歩道入口、そこからウィルソン株（峠から 5.7km、約 2 時間 40 分）、縄文杉（峠から 7.6km、約 4 時間 10 分）、そして九州最高峰の宮之浦岳（標高 1,936m）へと続く。

トレイル沿いの見所

弥生杉コース

溪谷の最も短いトレイルである弥生杉コースは全長 2 キロで所要時間は約 1 時間ほどになる。そのハイライトは日本の弥生時代(紀元前 300 年～紀元後 300 年)からその名をとった推定樹齢 3,000 年の弥生杉である。この巨木は、その複雑な形状から、まっすぐな板を切り出すことが難しかったため、木材として切り出されることは一度もなかった。現在、弥生杉の高さは 26.1 メートルで、幹回りは 8.1 メートルである。アクセスの容易さのため、弥生杉は島で最も多くの人々が訪れる屋久杉の

ひとつとなっている。弥生杉はマンサクの一種である花をつける木、イスノキの木立に立っている。

奉行杉コース

三つのトレイルのうち中間の長さになる全長 4 キロ、所要時間約 3 時間の奉行杉コースでは、最も多くの屋久杉を見られる。このコースの 7 つの大きな屋久杉には、「二代大杉」が含まれる。高さ 32 メートルで、この谷で最も高い屋久杉であると同時に、古い切り株から新しい芽を出す「切株更新」の一例でもある。遊歩道は「三本足」の三本足杉や、幹回りが溪谷最大の 8.5 メートルを誇る奉行杉を通る。この杉の幹には、数百年前に伐採業者が「試し切り」をした跡がある。彼らは木が均等に割れるかどうかをテストしていたが、最終的にこの木は使えないと判断した。奉行杉コースで見られる最後の屋久杉の巨木は、溪谷入口に向かって折り返す地点でトレイルにアーチ状に根を張る「くぐり杉」である。

太鼓岩コース

白谷雲水峡で最も長く、最も人気のあるトレイルが太鼓岩コースで、全長 5.6 キロ、所要時間は約 4 時間になる。主な見所は、苔むす森と、3 つのトレイルの最高地点である太鼓岩（1,050m）である。最初に辿り着くことになる岩がちりばめられた風景が印象的な苔むす森は、常に湿度が高く、落葉が少ないため、あらゆる面に苔が生い茂る。森を過ぎて 1.2 キロほど行くと太鼓岩に辿り着く。この大きな花崗岩の露頭からは、安房川と宮之浦岳や永田岳（1,886m）を含む屋久島の奥岳

が一望できる。また、この岩からは、かつての伐採集落があった小杉谷を眺めることもできる。

春から 4 月に薄いピンク色のサクラツツジ、4 月から 5 月にかけてはハイノキやナナカマド、5 月から 6 月にかけては白いコガクウツギ、夏にはスカーレット色のサツキ、8 月にはヒメシャラなど、春から夏にかけての白谷雲水峡では多くの花が見られる。

先へ進む

大株歩道はまず、16 世紀に伐採された杉の巨木の跡であるウィルソン株へと続く。ウィルソン株は、屋久島最古の切り株と言われている。その約 1.1 キロ先には、推定樹齢約 3,000 年の大王杉がある。トレイル沿いにさらに 0.8 キロ進むと、屋久島最古にして最大のスギといわれる縄文杉がある。大株歩道はここから険しくなっていく、縄文杉から 5.6km ほどで宮之浦岳に到着する。

注意事項

辻峠から縄文杉までのルートは急勾配なところが多く、この道を行くのであれば丸 2 日を要する計画をたてるべきである。また、宮之浦岳に向かう人は、避難小屋で一泊する必要もある。このルートは冬の積雪時には特に危険なものとなる。

奉行杉コースはいくつかの小川を横断するため、降雨時や降雨後の川の増水や滑りやすい岩に注意する必要がある。危険な場合は通行止めになることもある。ハイキングを始める前に、白谷雲水峡溪谷入口に掲示される標示を確認するか、公園スタッフにルート閉鎖について尋ねてみるようにした

ほうがよい。

ヤクシマザルやヤクシカ、あるいは様々な種類の両生類や昆虫類、鳥類がこのエリアには生息している。国立公園内の動植物保護のため、ハイカーは常にトレイル内を歩くことや動物に餌を与えないこと、水源を汚さないこと、苔を踏みつけないこと、またはゴミを残さないことを要求される。許可されていない場所でのキャンプ、森林内での火起こし、生き物を捕まえたり傷つけたりすることは、すべて法律で禁止されている。

島の天候は急変することがある。トレイル沿いでは落枝や落石に注意。携帯電話はほとんど通じないが、エリアによっては電波が入るところもあるので、ハイカーは緊急時に備えて電話を携帯しておくとうい。

太鼓岩コース沿いの白谷小屋付近には、汲み取りトイレと携帯トイレ用ブースがある。辻峠にも携帯トイレのブースがある。いざという時のために携帯トイレパックを携帯し、森に入る前に登山道入口にあるこの施設を利用するように。